

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		ニホンザルにおける食文化:生態学的・遺伝学的要因の相対的な重要性			
研究テーマ (欧文) AZ		"Dietary Culture" in Japanese macaques: relative importance of ecological and genetic factors			
研究氏 代表名 者	カナ CC	姓) ツジ	名) ヤマト	研究期間 B	2013 ~ 2015 年
	漢字 CB	辻	大和	報告年度 YR	2015 年
	ローマ字 CZ	TSUJI	YAMATO	研究機関名	京都大学霊長類研究所
研究代表者 CD 所属機関・職名		京都大学霊長類研究所・助教			
概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)					
<p>採食行動の地域差を目にしたとき、霊長類学者は、その違いが生じる要因を文化的要因に帰そうとしてきた。しかし、生態学的影響を排除した上で、文化的要因の相対的な重要性を定量的に評価しようという試みは、これまでほとんどなされてこなかった。解析に耐えるだけの複数の調査地のデータを集めにくい、生態学的データが不足している、という二つの問題があったためである。調査地が多く、主要食物の構成・森林構成・遺伝学的背景が既知であるニホンザルを調査対象にすれば、これまでの問題点を解決できると考え、本助成に申請した。</p> <p>冷温帯のニホンザルの生息地5箇所(下北半島(青森県)、白神山地(青森県)、金華山島(宮城県)、志賀高原(長野県)、日光(栃木県))を、2014年4-5月(春)、7-8月(夏)、9-11月(秋)、2015年1-2月(冬)に訪問し、それぞれの季節のニホンザルの主要食物となる植物を採集した。採集した植物サンプルを研究室に持ち帰り、a) 固さの測定(葉のみ)、b) 基礎成分(水分含有量、タンパク質含有量、粗脂肪含有量、粗繊維含有量、灰分含有量)の分析、c) タンニンの成分分析を実施した。研究期間中に、合計185サンプルの分析を完了した。遺伝学的要因の影響については、残念ながら、今回は検討できなかった。</p> <p>今後、a) 栄養分析の結果、b) すでに収集した単位面積内の生育本数のデータを説明変数とし、c) サルの採食行動(採食するか否か、あるいは採食の程度)を目的変数とした、多変量解析を実施する。これらの説明変数だけで調査地間の食性の変異が説明できれば、彼らの食性の違いは単に環境の違いを反映しているに過ぎないと解釈される。仮に食性の違いがこれらの変数で説明できない場合、ニホンザルにもいわゆる「食文化」が存在することになる。</p> <p>本研究のメインデータについてはまだ成果を公表できていないが、助成期間中にニホンザルの食性の地域変異についての総説を公表した(謝辞あり)。</p>					
キーワード FA	ニホンザル	地域変異	食性	栄養分析	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	Spatial patterns in the diet of the Japanese macaque, <i>Macaca fuscata</i> , and their environmental determinants							
	著者名 ^{GA}	Tsuji Y., Ito T.Y., Wada K., and Watanabe K.	雑誌名 ^{GC}	Mammal Review					
	ページ ^{GF}	227- 238	発行年 ^{GE}	2	0	1	5	巻号 ^{GD}	45
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

I and collaborators visited Shimokita Peninsula (Aomori Pref.), Shirakami Mountains (Aomori Pref.), Kinkazan Island (Miyagi Pref.), Nikko (Tochigi Pref.), and Shiga Heights (Nagano Pref.), all of which are known as study sites of wild Japanese macaques (*Macaca fuscata*), and collected leaves, flowers, and fruits of woody plants, on which the macaques fed. We then analyzed 1) hardness (only for leaves), 2) fundamental nutritional components (crude protein, crude ash, crude fat, and carbohydrate) and 3) tannin contents for each sample. So far we have analyzed 185 samples. In future we will conduct multivariable analyses in which we set 1) result of nutritional analyses and 2) tree density of each dietary species as explanatory variables, and 3) feeding time percentage as response variable, and address how environmental characteristics can explain regional variation in diet of the macaques.